

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 国際収支(2009年10月)
 ~貿易収支の回復が続く~

発表日2009年12月8日(火)

第一生命経済研究所 経済調査部
 担当 エコノミスト 岩田 陽之助
 TEL : 03-5221-4525

	原数値 経常収支 (億円)	貿易・サービス収支					所得収支 (億円)	季調値 経常収支 (億円)	貿易・サービス収支					所得収支
		前年比	貿易収支		サービス収支	所得収支			前期比	貿易・サービス収支		所得収支		
			前年比	前年比						前年差	前期比		前期比	
08	3月	29024	▲11.7	▲33.3	▲29.3	▲788	6.6	18488	17.8	52.9	36.6	▲323	5.1	
	4月	13859	▲29.4	▲59.1	▲41.9	1347	▲17.1	17238	▲6.8	26.9	▲1.8	1338	▲13.2	
	5月	19810	▲6.8	16.2	▲0.1	687	▲12.4	18466	7.1	9.5	9.5	▲114	3.6	
	6月	4716	▲68.9	▲99.8	▲81.5	▲440	25.1	14633	▲20.8	▲80.8	▲54.0	▲976	11.1	
	7月	15693	▲15.2	▲81.5	▲60.0	926	8.4	15960	9.1	224.3	37.6	1391	▲7.7	
	8月	10610	▲49.0	赤字	赤字	761	▲5.1	9460	▲40.7	赤字	赤字	▲723	▲5.7	
	9月	15646	▲46.5	▲89.6	▲81.9	77	4.9	15060	59.2	黒字	黒字	257	8.1	
	10月	9796	▲55.6	赤字	▲88.1	365	▲15.9	10593	▲29.7	赤字	▲92.5	162	▲7.7	
	11月	6236	▲63.4	赤字	赤字	643	▲15.4	4371	▲58.7	628.1	赤字	▲627	▲5.1	
	12月	1629	▲89.7	赤字	赤字	215	▲27.5	5922	35.5	▲29.0	▲51.6	▲547	▲4.1	
09	1月	▲1327	赤字	486.4	赤字	392	▲31.5	1568	▲73.5	60.2	136.9	342	▲13.9	
	2月	11348	▲54.9	▲92.5	▲80.9	▲263	▲34.1	6956	343.6	▲68.4	黒字	▲517	▲1.5	
	3月	15346	▲47.1	▲87.1	▲89.8	782	▲13.3	9392	35.0	▲32.2	87.4	605	24.2	
	4月	6606	▲52.3	赤字	▲72.1	▲348	▲18.3	10100	7.5	黒字	650.0	413	▲14.2	
	5月	13114	▲33.8	▲48.8	▲20.9	▲1341	▲24.9	10124	0.2	74.3	66.2	▲925	▲4.0	
	6月	12794	171.3	25505.3	143.9	1265	49.8	19284	90.5	300.3	81.0	1647	34.0	
	7月	12656	▲19.4	78.0	42.3	▲646	▲24.2	11590	▲39.9	▲58.7	▲35.8	▲1232	▲26.3	
	8月	11712	10.4	黒字	黒字	▲69	▲24.5	12336	6.4	45.5	15.2	521	▲5.9	
	9月	15679	0.2	234.1	87.1	1136	▲27.2	13380	8.5	4.5	▲21.9	1379	8.5	
	10月	13976	42.7	黒字	594.7	▲773	▲30.3	13762	2.9	16.0	67.2	▲2208	▲3.9	

(出所)財務省「国際収支状況」

○10月の経常収支は前年比+42.7%

10月の経常収支は前年比+42.7%の1兆3976億円(原数値)の黒字と、ほぼコンセンサス(同1兆4832億円、レンジ1兆2215億円~1兆7817億円)通りの結果となった。季節調整値で見ても3ヶ月連続での増加となり、経常収支の緩やかな改善傾向が継続していることが確認された。円高・金利低下などにより所得収支の黒字幅が縮小する一方、中国を中心としたアジア向けなどの輸出回復により貿易収支の黒字が拡大したことで、全体としては黒字幅が拡大した。

○貿易収支の回復が続く

経常収支の内訳をみると、貿易収支は9490億円(前年比+594.7%)の黒字となった。輸出を地域別(通関ベース)に見ると、中国を中心としたアジア向けの回復が続いている。中国に関しては、景気刺激策の効果が続いていることや中国自身の先進国向け輸出に持ち直しの動きがみられることが背景にあると考えられる。また、在庫復元の動きから欧米向けの輸出も底堅く推移している。財別に見ても、輸送用機械、電気機器、一般機械など主要な輸出品目の回復が続いており、輸出は堅調な推移が続いている。一方、輸入をみると、原油価格下落などによって輸出金額よりも減少幅が大きくなった。この結果、貿易収支は黒字幅が拡大する結果となった。

サービス収支は▲3307億円(前年比▲30.5%)と、赤字幅が拡大した。「輸送」と「旅行」の赤字幅は縮小したものの、「その他サービス」において、研究開発費やマーケティング費用などを含むその他営利業務の支払が増加したことで、全体としては赤字幅が拡大することとなった。

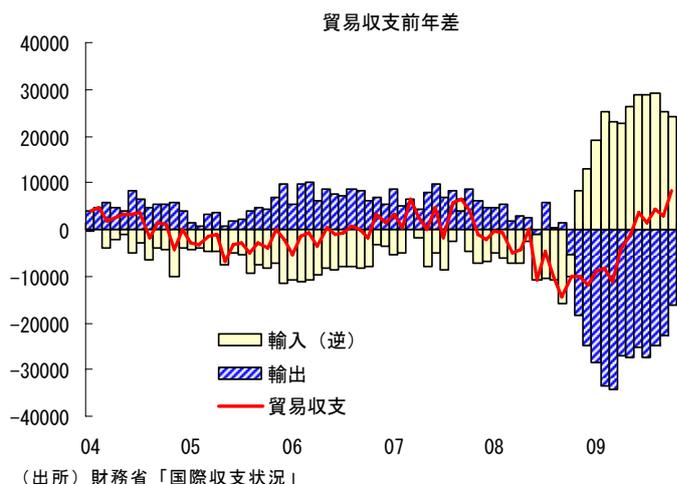
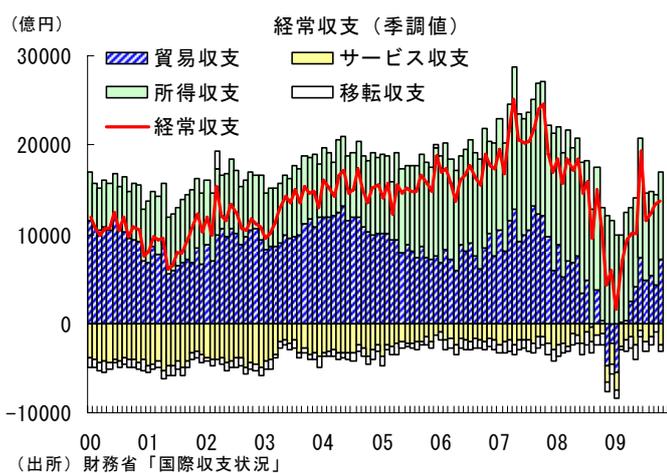
所得収支は8465億円(前年比▲30.3%)と、前月(同▲27.2%)に続き黒字幅が縮小した。海外金利低下や円高進行などにより債券利子受取が減少したことなどから、全体として黒字幅が縮小している。10月中のドル・円相場は90.29円と前年同月(100.33円)に比して10.0%の円高であった。

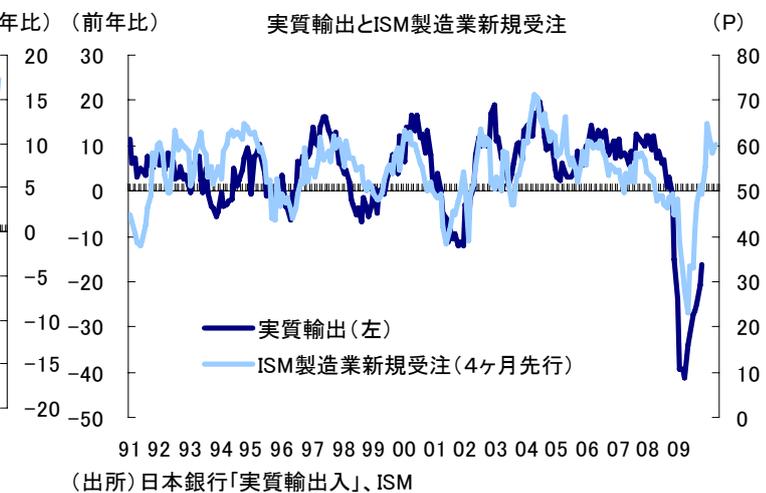
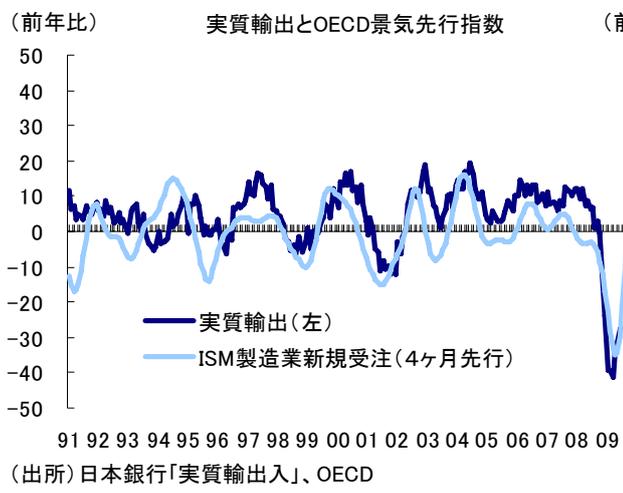
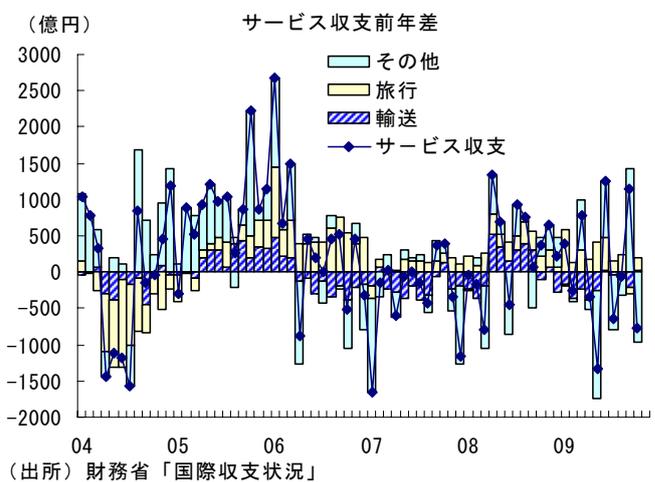
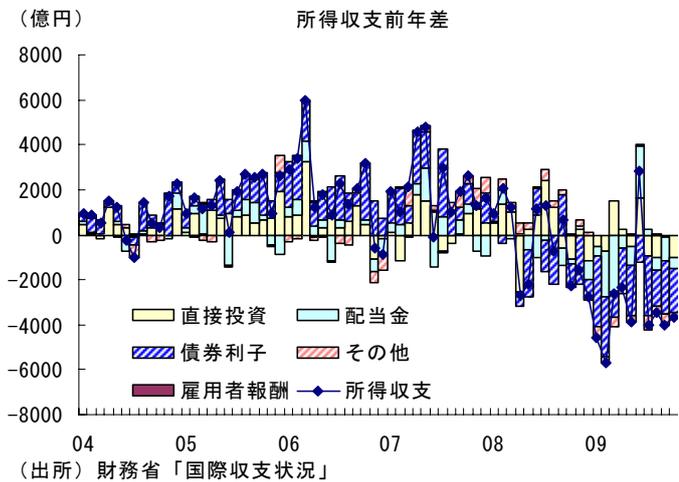
○先行き経常収支は、貿易収支の改善を主因に改善傾向が続く見通し

経常収支の先行きについて展望すると、貿易収支の改善を中心に緩やかな回復が続くと見込まれる。輸出は、アジアを始めとした世界経済の持ち直しを背景に、引き続き改善傾向が続くと予測される。輸出に先行する傾向があるISM製造業景気指数(新規受注)やOECD景気先行指数などの指標も改善していることから、輸出は底堅い推移が見込まれる。一方、輸入に関しては、国内での生産活動回復などの影響による持ち直しが続くと思われるが、国内景気は依然として外需頼みで、力強さは窺えない。輸入の回復ペースは、輸出に比して緩やかなものに止まると予想される。このため、当面は貿易黒字の緩やかな拡大が続くだろう。

次に、所得収支は、横ばい圏内での推移が予想される。世界経済の回復に伴う海外子会社の業績好転により受取配当金は回復していくことが予想される。もっとも、所得収支受取の大半は米国債からの債券利子である。物価の低下傾向が続いていることや経済成長のペースも緩やかなものに止まることを考えると米国金利は引き続き低水準での推移が続くと予想される。また、円高も引き続き受取の減少要因となると思われる。特に、11月は円高が大きく進行しており受取の減少幅拡大が懸念される。12月に入り、日銀が金融緩和に踏み切ったことで一段の円高進行には歯止めがかかっているものの、足元でも円ドルレートは80円台後半での推移が続いている。先行きも円高・金利低下の影響が残存することで、所得収支は回復力に乏しい動きが継続するだろう。

以上を踏まえると、先行き経常収支は、貿易収支の改善を主因として、緩やかに持ち直しが続くと見込まれる。





本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。